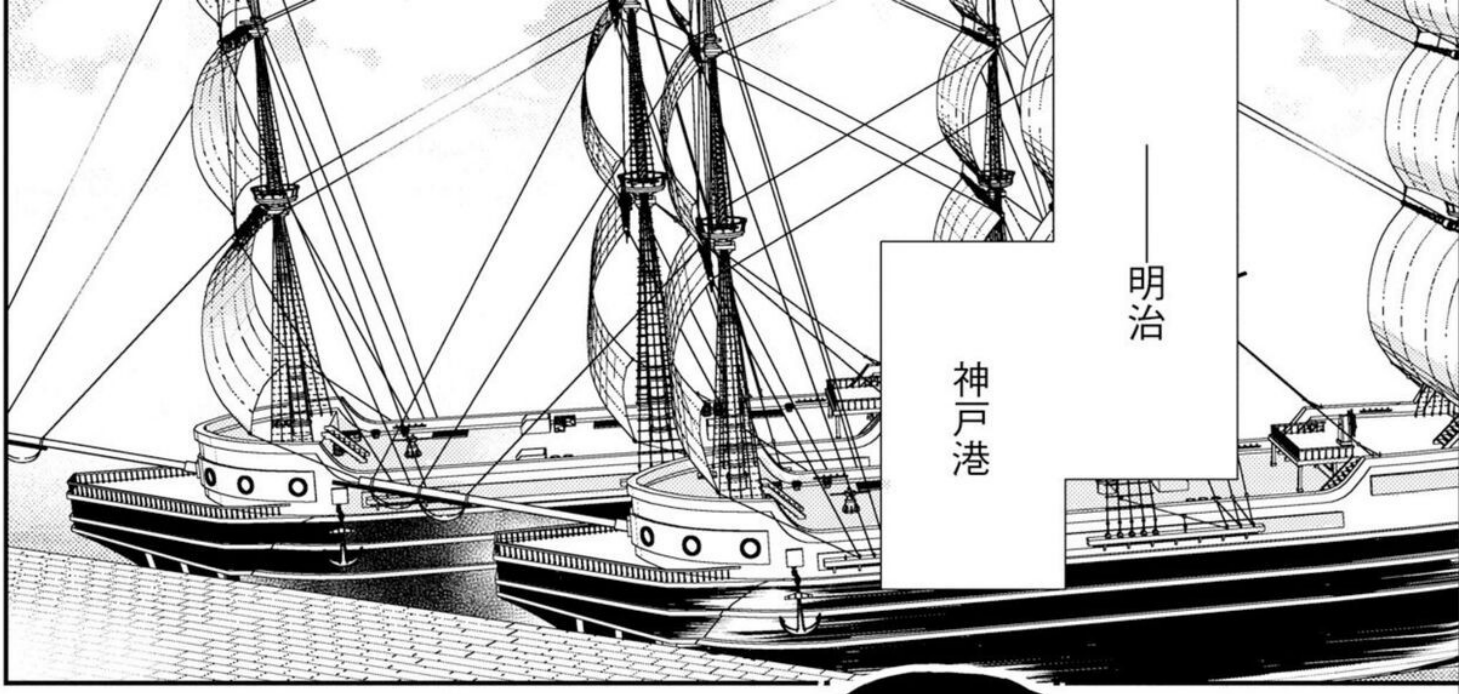

1
OHZORA SHUPPAN
Young Love Comic
aya



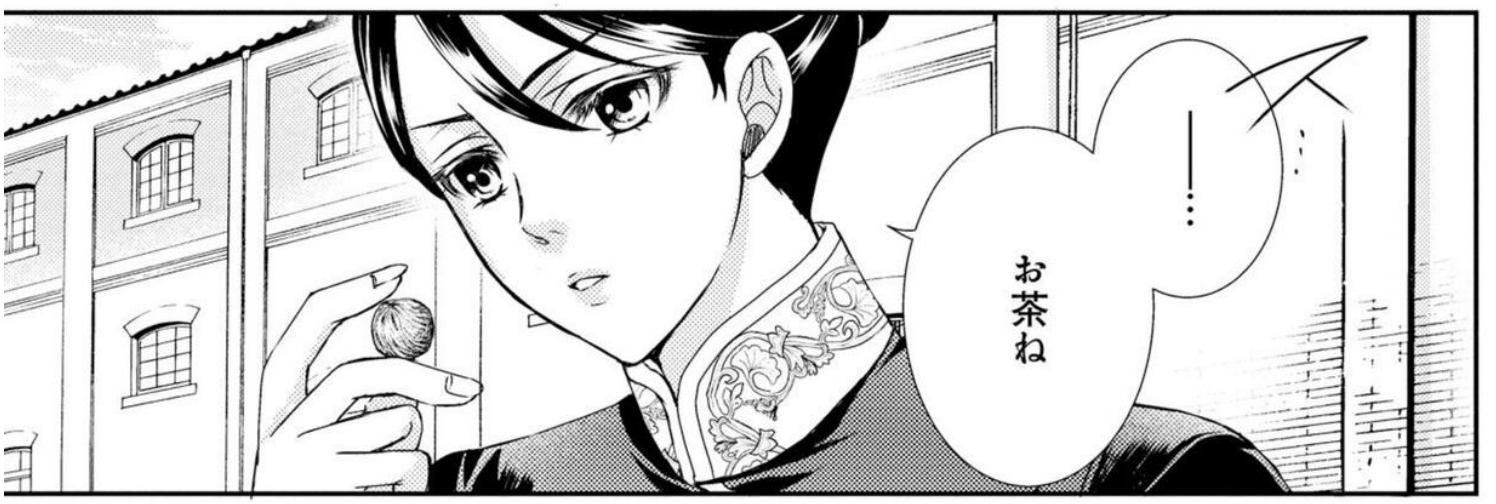


私は国から
神戸に貿易船を
取り締まる

監察大使官
来須乙女(くるすおとめ)

芥子(アヘン)の粉の検査のため
その荷を改めさせて
いただきます


それはそれは
ご苦労様です
私どもの
扱っている物は
お茶ですよ
ほら…
ご検分を…


お茶ね
……

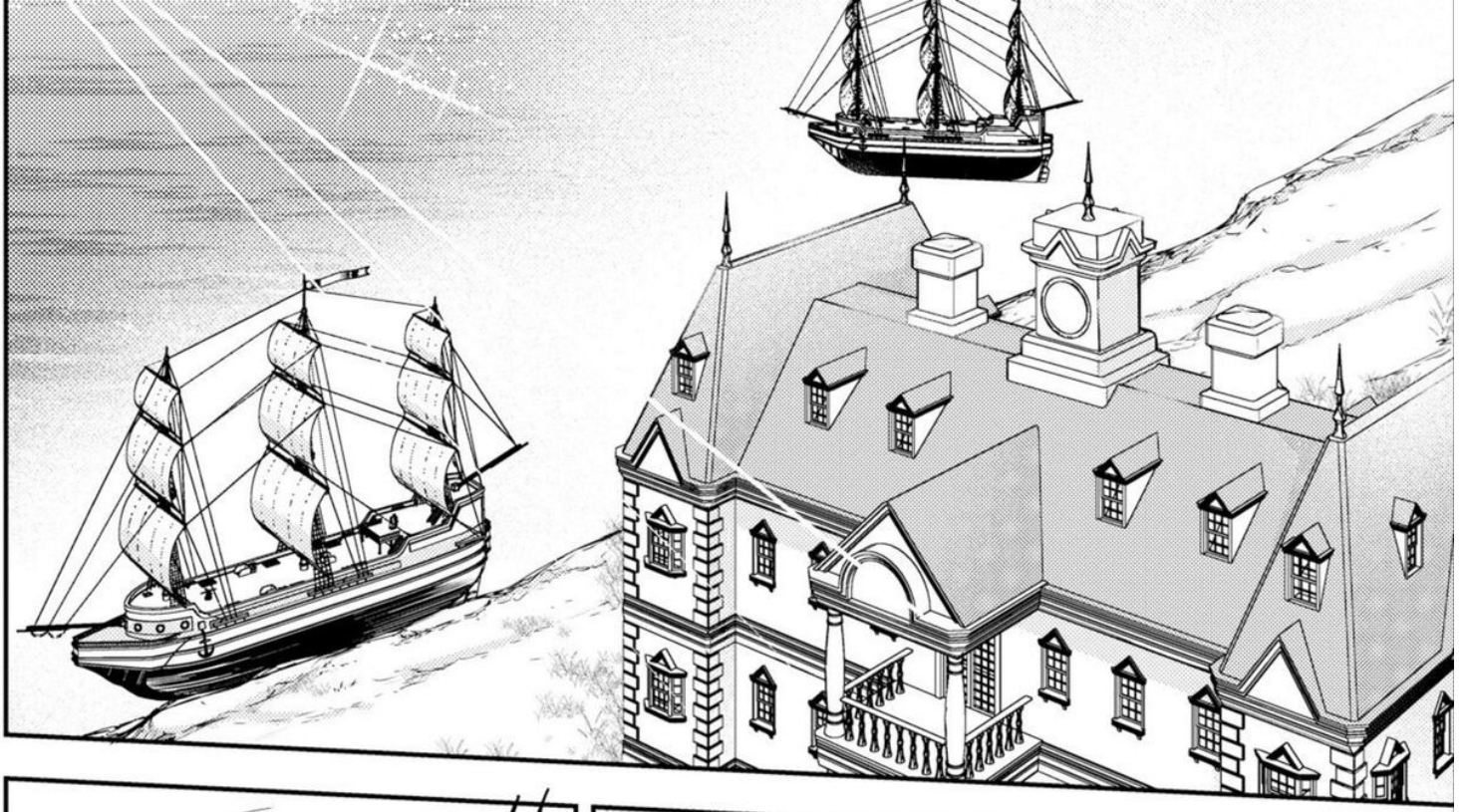

とても高級な逸品で
小笠原様に早急に
お届けしなければ
ならないので
そろそろ
失礼
いたしますね
待って…
このお茶…
少し芥子のにおいが
する


お茶の中に
ちょっとずつ芥子の粉を
入れて運ぶ…
考えたわね


でも私の眼は
騙せないわ！
私がいる限り
この神戸から
アヘンは絶対に
入れさせない
引ったて
なさい!!
くっ
このアマ!!
ただで済むと
思うなよ！


貿易商:
チャーリー
流石は
鉄の令嬢
乙女さんだ
お見事
！
乙女さんが
欲しがっていた
いいものを
仕入れてきましたよ


すぐ戻るから
屋敷の地下に
運んでおいて
ちょうだい




不治の病のおじい様はご体調いかがですか？
…国の病院にいるわ…でも芳(かんば)しくないみたい


今の日本の医学では限界なのよ


だからこうして私が貿易を通じておじい様の病気を治す方法を探してるんじゃない


はあ
ミイラに
キョンシー…
ゾンビなんて
もう黒魔術的な
不死の方法じゃ
ないですか
いいんですか？
監察大使が
こんな物…
おじい様の命を
救う可能性が
あるものは
何でも集めるわ
それに私
取り締まれと
命令が出てるのは
アヘンだけだもの


そんなことより
これが
吸血鬼の入った
棺？

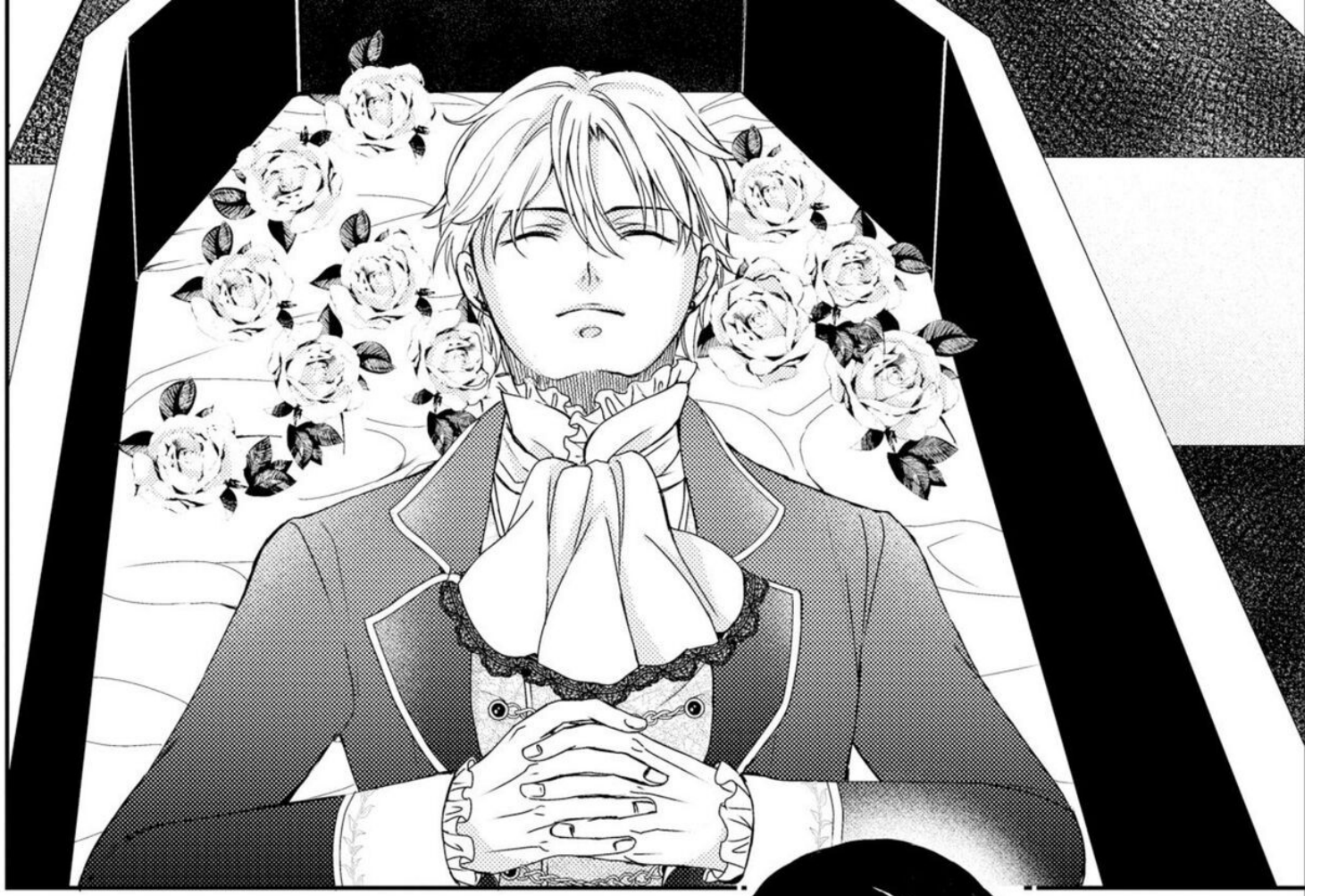

ええ…
探すのに
苦労しましたよ
危ないので
迂闊に触れないで
くださいね
厳重に
封印してますから


吸血鬼の細胞は
薬にすれば
不治の病も治るという
ただし 眠りを
醒ますためには
処女の生贄が
必要です
よくよく熟考の上
棺を開けて
ください


これは
鎖を解くカギ
あとは
銀の弾丸
子供騙しですが
一応 護身用に


ご健闘を
ドクン
ドクン


チャーリーは
下女を使って
開けろと言った
でもこれは
私の問題よ
本当に危険なら
余計に関係のない
人を巻き込めない
ガラッ

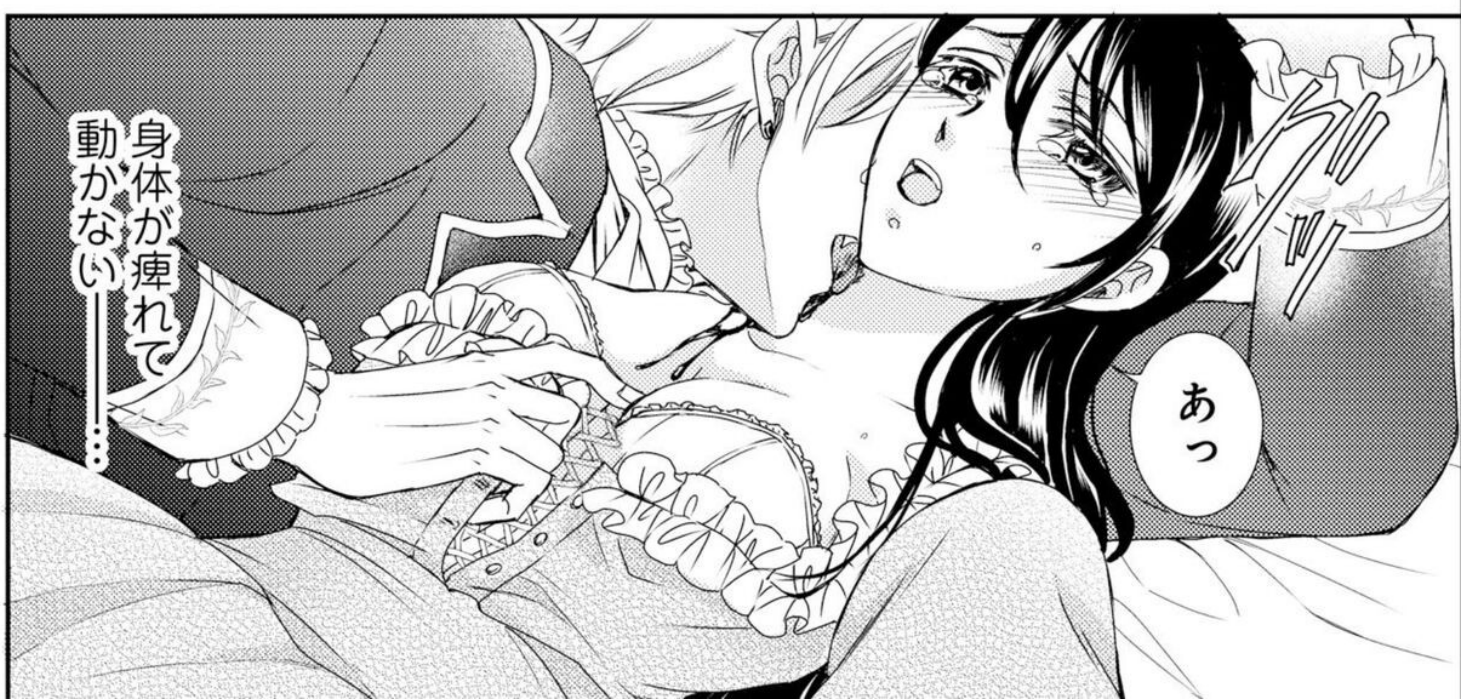



ほう…
綺麗な顔…
まるで陶器の
人形みたい
それに
今までに見た
不死の者より
瑞々しくて…
寝てるような…
え？


嘘――!!
きゃ!!
日本語…だな
極東の国
ずいぶんと
遠くまで
運ばれたものだ
せっかく
気持ちよく
寝てたものを…
女…俺を
起したのは
お前か？
ぎりっ
ぐっ


可愛い顔をしているな…
俺好みだ
寝起きの気付け薬に丁度いい
すっ
ゴソッ
んっ
噛みつかれた!!


ビクッ
一瞬痛みが走ったけど…気持ちいい
はっ
ヒクッ
はっ
チュッ
んっ
くっ
モミ

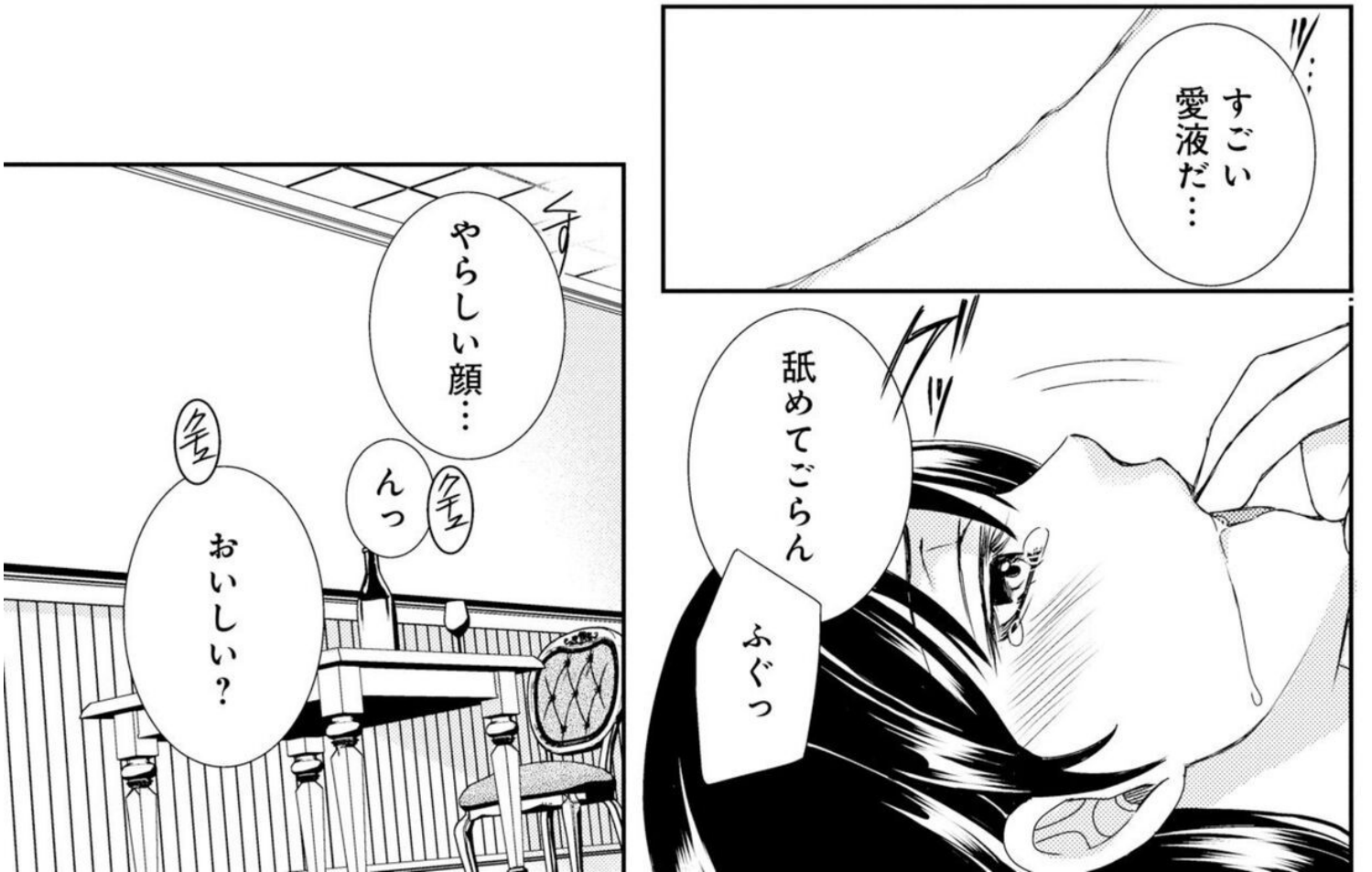

身体が痺れて動かない……
あっ


だめ…
力が入らない
おやおや
やっ
ああ
上半身の愛撫
だけでそんなに
トロけてくれて
光栄だ
俺の体液には
催淫効果がある
甘く痺れる
だけで…
痛みはないだろ？
あっ！


濡れている…
ここを
触れられるのは
初めてだろう？
クチュ
す
もっと
気持ちいいことを
してやろう
クチュ
クチュ
アッ
クチュ
クチュ
もっともっと
快楽に溺れろ
そうすれば
血がどんどん
甘くなる
やっ


血を吸われる度
快感が押しよせてくる…
屈辱でしか
ないハズなのに!!


はっ
お前の血は
変わった味を
しているな
まるで
極上のワイン
たまらなく
癖になる…
欲情する味だ


すごい
愛液だ…
舐めてごらん
ふぐっ
やらしい顔…
んっ
おいしい?


誘っているのか？
処女の割には
淫廉なお嬢様だ
こら…
暴れるな
んっ
そろそろ
ひとつになって
一緒に楽しもうか
!!


血を吸われるくらい
別に気に
しないけど…
こんなのは
絶対 嫌!!




これ以上
私に触れたら
銀の弾丸
ブチ込んで
もう一度
眠ってもらうわよ
これは…
大したオモチャを
持っているな


好きでもない男に
身体を弄ばれて
喜ぶほど…
商売女じゃないわ
私は貿易商…
貴方と
商談がしたいの


貴方の
生きた細胞を
分けてちょうだい…
その代わり
貴方が私を
欲しいというなら
提供するわ
血でも肉でも
身体でも好きにして


まるで…
自分を商品のように
言うね…
それで納得
できるの？
君…
そうね
好きでもない
男に手籠(てごめ)めに
されるのは嫌よ
でも これが
取り引きなら
割り切れるわ
これで
等価交換だと
思うのだけど？
商談
成立だ


俺はウィル…
見ての通りの
吸血鬼(ヴァンパイア)
お前は？

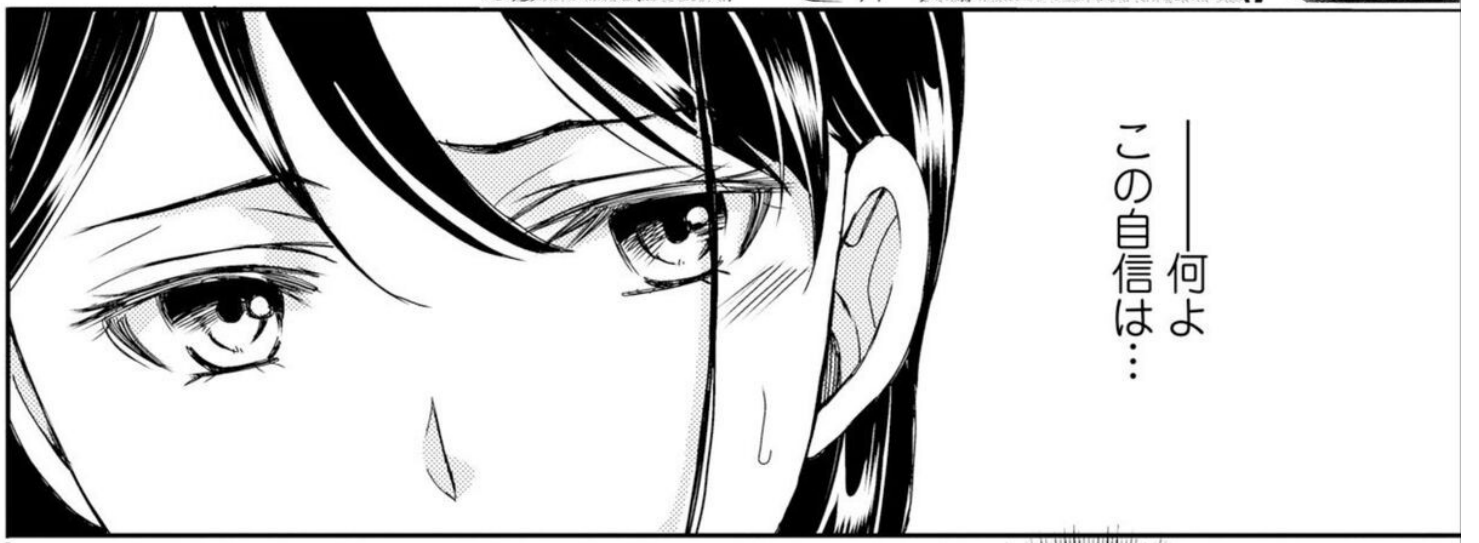

来須 乙女…
貿易商
そしてアヘンを
取り締まる
国の監察大使よ


それはまた
危険な
仕事を――…
だから
気が強いのか
――…
わかった…
それなら俺が
お前が傷つかぬよう
護衛してやろう
は？
どうして
そうなるの？


自分の餌を
守るのは当然だ
それに乙女には
俺をもっともっと
好きになって
もらわなければ困る
恋愛感情が
加わると
血はさらに美味くなる
俺はお前の
最高の血を
味わいたい


にこっ
そうむくれるな
かわいい顔が
大なしだ
何をされても
身もだえるほど
惚れさせてやる
交わってもいいと
思えるようになったら
ご褒美をいただくよ
ご主人様♡
それでどうだ？


馬鹿ね
私が貴方に
特別な感情を
持つ保障なんて
ないじゃない
そんな事言ってたら
食いっぱぐれるわよ。
絶対
惚れさせるさ


――何よ
この自信は…


コイツ…
調子が狂う!!


んっ
乙女…
起きて
朝だよ

ウィル!?
何勝手に
寝室入って
きてるのよ!
というか
その姿…


ねえ…今
朝よね
吸血鬼って
日光ダメ
なんじゃ
あなた…
平気なの?


質問が
いっぱいだな
この屋敷には
まったく使用人の気配が
ないから 衣装は
勝手に拝借した
使用人の服。
日の光は好きだ
少しだるいくらいで
問題はない
朝食を
用意したんだ…
一緒に食べよう


いいけど…
普通 使用人が
一緒に食事する？
はは
食事はひとりより
複数のほうが
楽しいぞ


おいしい…
それは
よかった
料理は得意だ。
人と食べるなんて
どれくらいぶりかしら――…
おじい様が入院してから
ずっとひとりだもの


使用人や傍にいた人は
みんな
私を騙そうとした
それは私が弱い
少女だったから
だから
甘い言葉は
信用しない…


ほう？


そうだわ
今日 おじい様の
入院してる
政府の病院に
連れてってあげる


貴方だって
細胞が何のために
使われるか
知る権利があるわ
納得できなきゃ
身体の一部なんて
渡せないじゃない


乙女は
誠実だな
だが少し
気軽に考えねば
ハゲるぞ？
ハゲ…


道理に反したことが
嫌なだけよ！
誠実じゃないわ
私は世の中が決める
善悪に興味ないもの…
例え黒でも
自分が正しいと
思ったら貫くわ

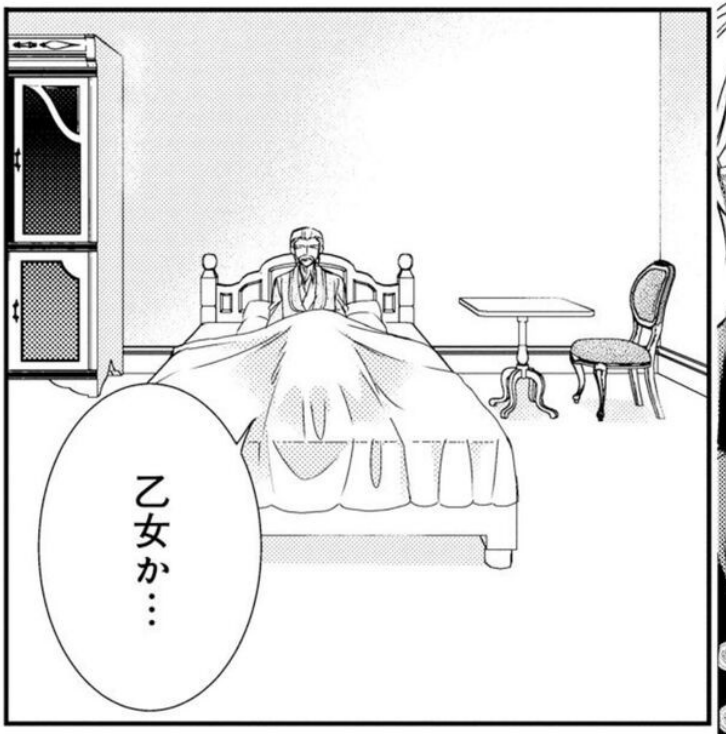
気が
合うな

俺もだ



おじい様

起きても
大丈夫なんですの？



乙女か…



よく来たね
今日は気分が
いいんだよ


この老人が
乙女の祖父か
優しそうな
人だ…
おお…
綺麗な
バラだね
ありがとう
乙女
あんな表情
できるのだな——…


チクッ
あっと…
バラの棘で
やってしまった
ああ…大変
血が!!
少々
失礼いたします
ウィル
なかなか
気が利く
使用人だな
君は？
ニコッ
ウィルと
申します


乙女が人を
連れてくるなんて
珍しいことだ
ウィルは
信用されて
いるのだな
乙女は極度の
寂しがり屋だから
頼んだよ ウィル
おじい様


御意


あの老人を
助けたいのか…
私の唯一の
身内なの――…
クン…
たしかに
乙女と同じ変わった
血のにおいがする
だが
この血は…
病魔に犯されている


血の病気だ
わかるの？
貴方…
本能だ
俺ならば
こんな毒の血は
絶対口にしない


俺の体が
薬になるなら
試すがいいが
助けるのは
難しいかも
しれないぞ


それでも…
やらないで
後悔するより
マシだわ



何するの！

これじゃ
何も見えない
じゃない

うん…

乙女が
こうして欲しそうに
見えたから――

Young Love Comic aya

【単話売】純蜜乙女の溺愛契約

～執事はドSヴァンパイヤ～　1話

霜月星良

©SEIRA SHIMOTSUKI

デジタル版発行　2018年12月
初版発行　2018年12月

発行人　北脇信夫
編集人　中江陽奈

発行所　株式会社 宙(おおぞら)出版
http://corporate.ohzora.co.jp
最新の住所・電話番号は弊社HPをご覧ください。

本書はフィクションです。実在の人物、事件、団体には、いっさい関係ありません。

本書の一部、または全部を無断で複製・転載・上映・放送等することは、法律で定められた場合を除き、著者及び出版者の権利の侵害となります。


2
OHZORA SHUPPAN
Young Love Comic
aya


そうだわ…
すっかり忘れてた
15時頃…
私の貿易船に
行くわ


お客が
来るのよ
客？


はい…
この人よ
これは…
お見合い写真
というやつか


小笠原公麿
この男が結婚を
申し込んできたわ
なんというか…
金持ち丸出しの
品のない男だな
こういうのが
乙女の好み
なのか？
まさか…
戦争成金よ…
武器商人して
爵位もらったような


で…
もちろん
断るんだろ？
じゃなきゃ
俺はコイツを
殺すことになる
…なんで
そうなるのよ
ガタ…
そんなの
決まってる


貴女が
好きだから
ご主人様


なニ
何するのよ
いきなり
あまりからかうと
銀の弾丸で
撃ち抜くわよ!!
だって私…
ウィルに好かれる
ようなこと
何もしてない!!




ようこそ
お越しくださいました
小笠原さま
椅子へ
お掛けください

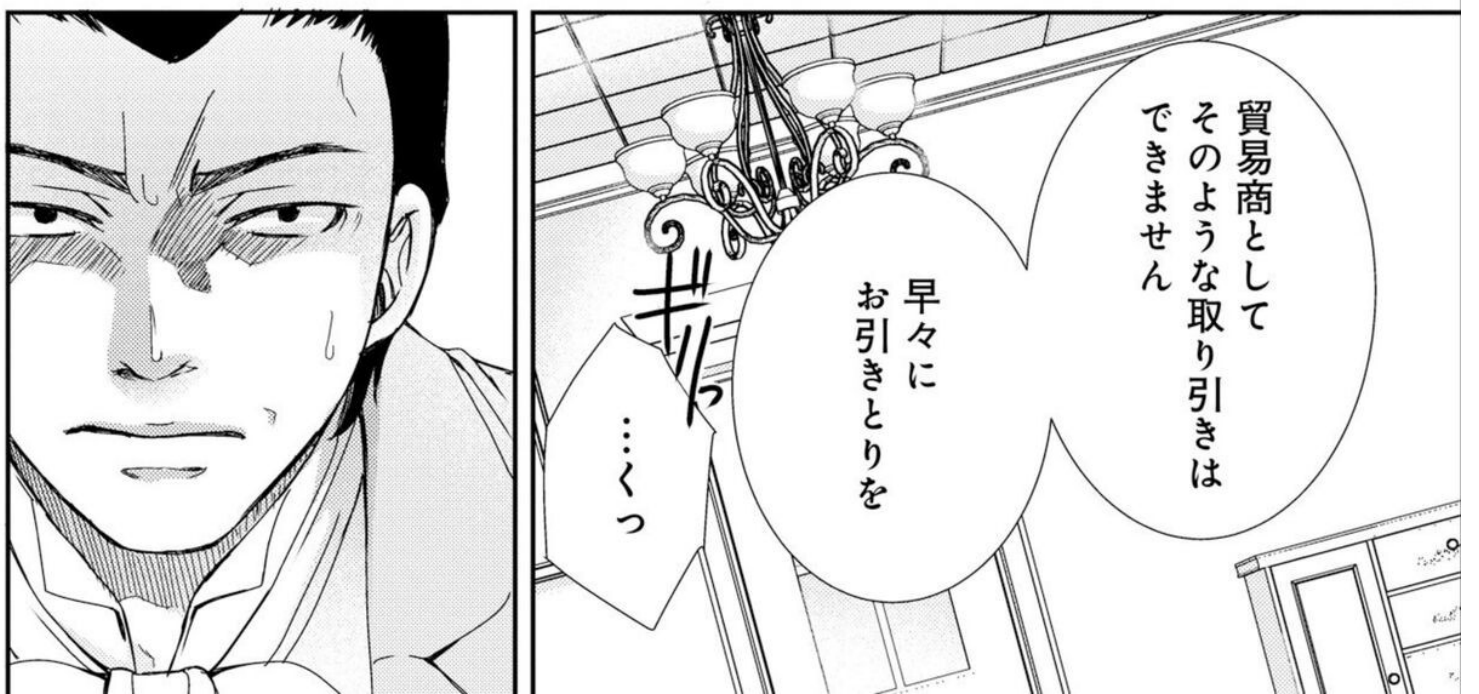

ああ 乙女さん
今日もお美しい
軍服姿もいいですが
私としてはドレス姿が
見たかったなあ
ははは
勤務中ですので
貴方の好みは
知りません
ずっぽり


そういえば
昨日は失礼
しましたね
私宛てのお茶の荷に
アヘンが仕込まれて
いたとか…
どうも誰かが
うちの積荷を
利用して密輸しようと
したようで
我々も
運んできた商人も
何も知らなかった
のですよ


昨日 軍部に
連れて行かれた商人は
解放してやって
くださいませんか？
私と乙女さんの
仲じゃない
ですか…


商人は今
取り調べを
受けてます
無罪でしたら
すぐに釈放
されるでしょう
それに
貴方と私は
どういう仲だと
いうんです？


まずは
いただいている
結婚の件
お断りします
貴方は私の
地位や権力を後ろ盾に
色々悪い事業展開を
なさりたいかもしれないが
私には貴方を
伴侶にする
メリットがありませんし


貿易商として
そのような取り引きは
できません
早々に
お引きとりを
…くっ


そうおっしゃると
思って
貿易に関して
とっておきの
秘密の情報を
持ってきたんですよ
どこかふたりきりに
なれる場所を――…
――…


ウィル…
先に帰って
夕食の準備を
してちょうだい


ですが 乙女様…
もし何か危険が
ございましたら…
大丈夫よ…私は
自分で自分の身は
守れるわ…



御意




ん！
へへ…
昨日輸入したばかりの
西洋製の催淫薬(さいいんやく)は
よく効くだろう？
小一時間は
軽く動けなく
なるらしい


手間かけさせ
やがって…
口では言えない
恥ずかしい思いをさせて
俺のところに嫁に
来るしかないように
してやる


はぁ
小娘のクセに
いい身体してる
じゃねぇか
はぁ
力が抜けて…
思うように動けない


そのコルセットの
中身…拝ませて
もらおうか
はら
わぁお♡


この!!
もうガマンの限界だわ
脳天ぶち抜いてやる
おっと…まだこんなに動けるのか
!!
こんなモノは没収だ
これで丸腰…女の身で男をなめるなよお嬢さま
はっ





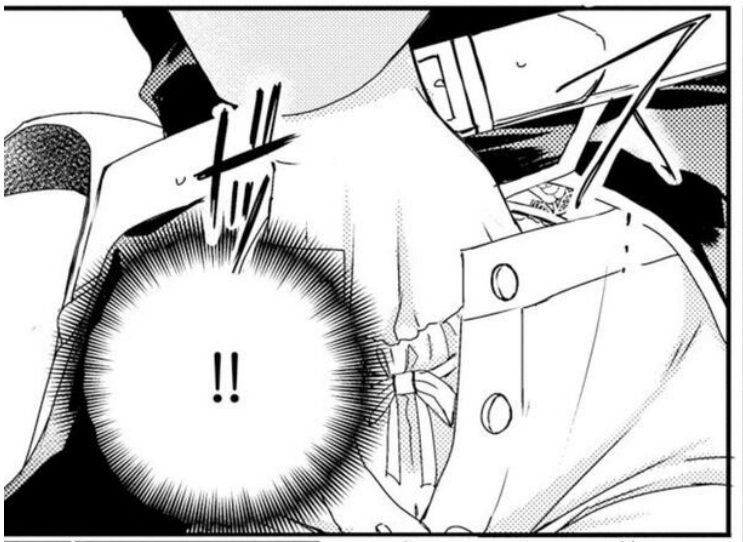
愛や恋…
気持ちなんて関係なく
こういうことできるんだわ

ただ…交わりたいだけの
ケダモノ

わかっていたけど…
こんな男に!!


ウィルは
無理矢理なんて
しなかった


男には…
いろんな種類がいるの？
それとも…ウィルは
吸血鬼だから
特別なの？


!!


やっ
ウィル!!


俺の大事な
ご主人様に汚い手で
触れないでください
頭が
飛びますよ
ウィ…ル
待て！
俺を撃てば
どうなるか…
ドゥン


情けない男だ
失神するとはな
撃つわけないだろう…こんなやつ相手に弾がもったいない
乙女…立てるか？
立てるわ!!
あと…少ししたら…
ぼそっ
腰がぬけたなんて言えない…


そんな悩殺姿で
こんな所に
いる気か？
帰りが遅ければ
その男の手下が
きっと探しに来るぞ？
また男共の
餌食になりたいのか？
それなら俺が
いただいてしまうぞ？





どうしてかしら…

ウィルになら
こうされてもいいと
思えてしまう――…




今日は酷い目にあったわ…
一応助けてもらったし…お礼は言うわ
ありがとうウィル…
そんなことより水を少し飲め…薬が抜けていない
クイ。




ゴク…
ふ…
ゴクン
んっ
チュル
アッ
チュッ
はっ
なんで
口移しなのよ
やらしい薬が
入ってるみたいだから
少し実験…


ちょ…
何するのよ
別に変な気分に
なんてなってないし…
少ししびれて
動きづらいだけよ！
そう？
やっ
乳首勃ち上がって
けっこう体温も
高いけど？


こういう時の血は
すごく甘美で
トロトロで美味しく
なる
吸血鬼は
一口飲めば
相手の感情が
わかる
んっ


これのどこが
大丈夫？
うそつきだな


～～ふっ
人が動けないと
思って…
貴方といると
何かいつも
屈辱的だわ


そうして恥じらって拗ねてる乙女かわいい
ねぇ乙女…俺は頼れる男だろう？
少しは惚れてこない？
チュッ
ピクッ


惚れないわ…それとこれとは話が別…
ほっ
ひゃあ
や


な…何
する気よ…
ちょっと
身体検査…
ここから…
男を誘う蜜の
匂(にお)いがする
ほら…
こんなにヌルヌル
し…
知らない
やっ
あ
ウィル…
そんな所
ダメっん…


薬残ってるとつらくなるから達した方がいい
こんなに次から次へと蜜が溢れてるんだから
やあ
んっ
はっ
ウィル…
もうやめて…このままじゃ
ひゃっ
あっ
なにかがこみあがってくる!!


はっ
……
ドサッ


はっ
乙女…
俺も気持ちよく
なりたい
挿れたり
しないから…
ご褒美ちょうだい
しゅす
え？


そのまま
腰持ち上げて…
足 ぎゅっと
閉じて
!!
これなら
痛くないだろ？
はっ
ちょっ
痛くないけど…
これ…
アツいモノが
敏感な部分を
こすりあげて…
ぬちゅ
はっ


また達しそう？
いちいちかわいいな
乙女は――
なっ
好きだよ
チュッ


チュッ
チュッ
フル
あ


はっ
お前の血…
どんどん甘く
なっている…
俺のこと
好きになってきてる
証拠だ


人を信用したら
裏切られる…
だから乙女は
人は信用しない
大丈夫…
俺はお前を
裏切らない
ポタ


血を分けてもらった
相手は…
生涯の花嫁
自分の半身
だから
永遠の愛を
誓う


魔物は人より
意外とピュアなんだ
俺はお前が
主人でよかった
Chu


俺は
乙女が
好きだ…
乙女にも俺に
ときめいて…
好きの気持ちで
満たして欲しい
トク
トク


心臓がうるさい…
初めての感情
私…少し変だわ
トク
これがウィルの言う
好きという
感情――…なの!?

Young Love Comic aya

【単話売】純蜜乙女の溺愛契約

～執事はドSヴァンパイヤ～　2話

霜月星良

©SEIRA SHIMOTSUKI

デジタル版発行　2018年11月
初版発行　2018年10月

発行人　北脇信夫
編集人　中江陽奈

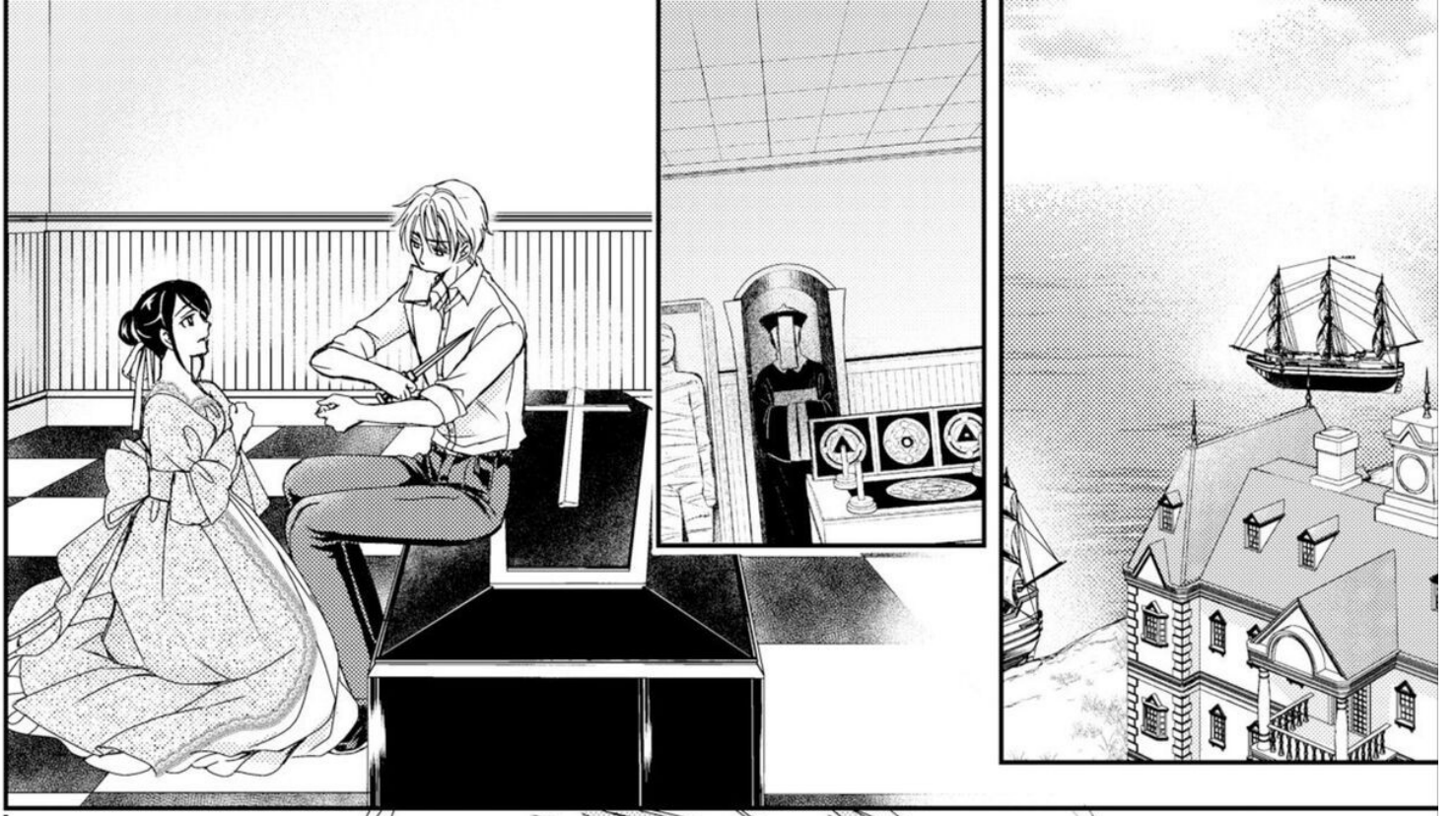
発行所　株式会社 宙(おおぞら)出版
http://corporate.ohzora.co.jp
最新の住所・電話番号は弊社HPをご覧ください。

本書はフィクションです。実在の人物、事件、団体には、いっさい関係ありません。

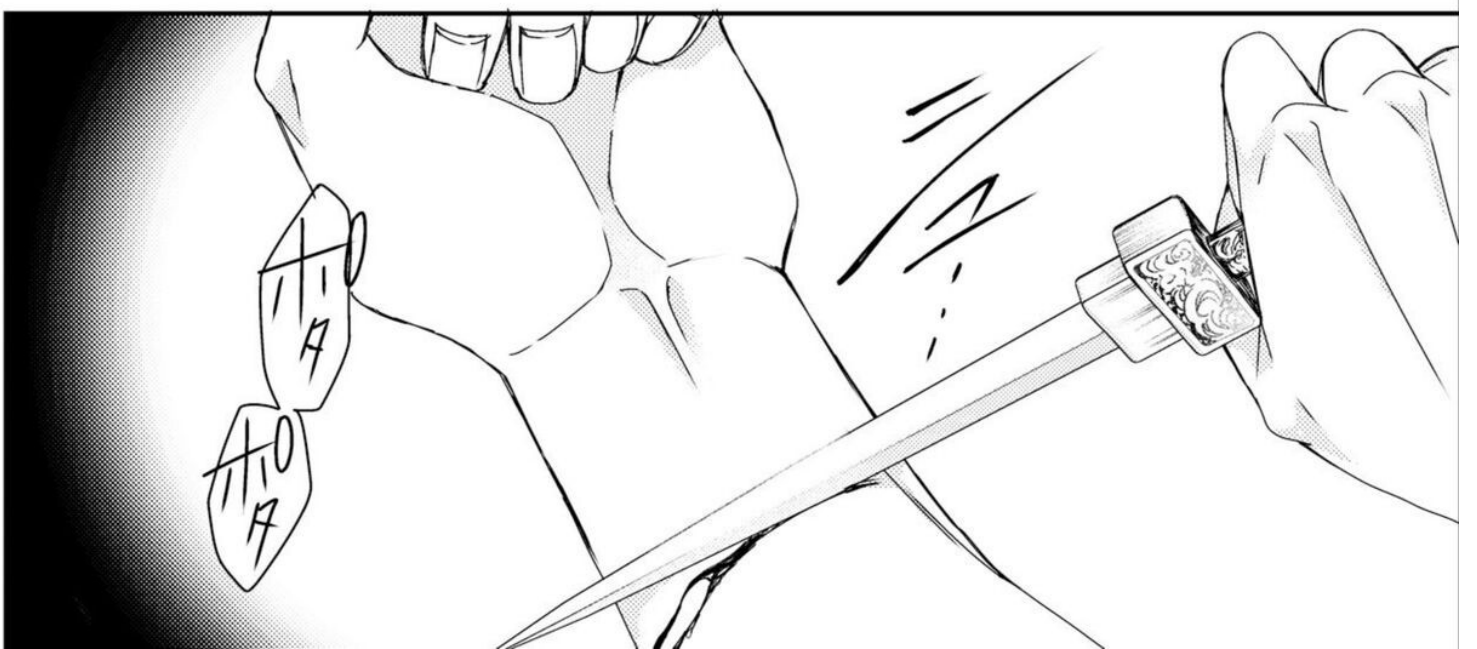
本書の一部、または全部を無断で複製・転載・上映・放送等することは、法律で定められた場合を除き、著者及び出版者の権利の侵害となります。


3
OHZORA SHUPPAN
Young Love Comic
aya










ビクッ
怖い？
まったく…
嫌なら見なければ
いいのに
律儀だな
乙女は…


平気よ…
役人仕事してたら
血なんて見慣れて
いるし
私が貴方に
『生きた細胞』を
分けて欲しいって
お願いしたんだから
責任と義務が
あるわ！


肉なんて
いらないわよ！


はは
意地っぱりな
お嬢様だな
それより
血なんかで
いいのか？
何なら肉でも…

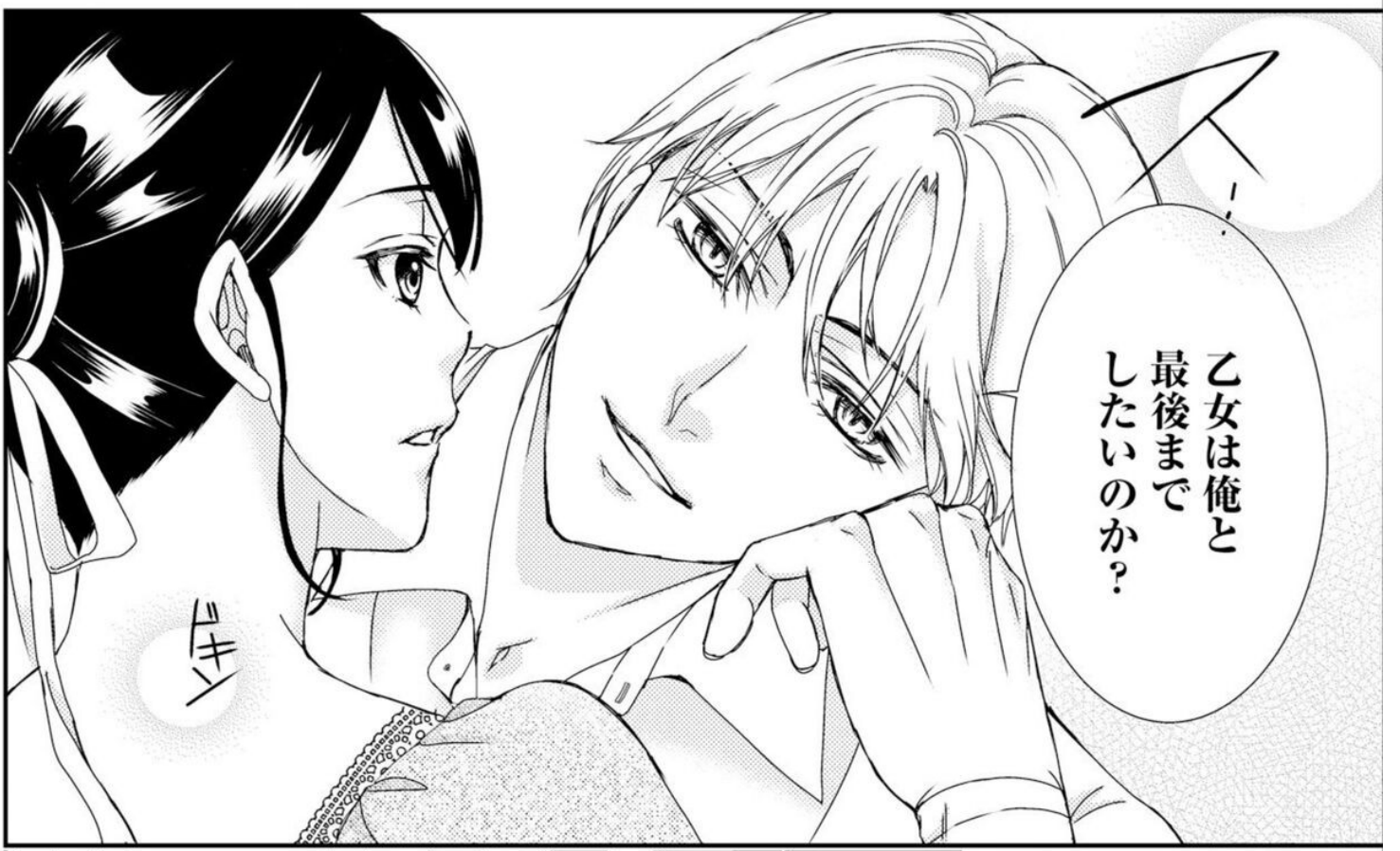

そもそも本当に薬になるのかもわからないし…
専門家に解析してもらって…必要だと言われたら少しいただくかもしれないけど…
貴方…もう少し自分を大切にしたほうがいいわ
いくらすぐに怪我が治るとしても痛みはあるのでしょう？


ふはははは
何がおかしいの!?


まさか
鉄の令嬢から
そんな言葉を
いただけるとは
ガタ…
んっ


何するの！
なっ
はっ


血の交換条件に
乙女を
もらっている
俺は天使じゃない
からな…ちゃんと
見返りはもらうさ
――…
私…貴方に
あげてないわ
その…
いつも――…
ゴソ


乙女は俺と
最後まで
したいのか？
！！
ドキン


違っ
ぼ


ただ…
貴方が痛い思いを
しているのに
公平な感じがしないし
殿方は
あんなふうに
なっている状態で
止められるの
辛いって聞いたわ
どこで覚えたの
それ――…
母のお前がミ
誘ってくれるなら
いつでも俺は
応えるけど…
ヒヤ
やっ
息…
かわいい
乳首
ヒクッ
あっ
んっ
こんなに固くして
俺の吐息で
感じた


ちがう…
人の話を
聞きなさい
そう？
きゃっ
どこに手を
入れてるの
ほら…
ここ熱くなってる…
やあっ
ビクッ
ビクッ
なんでこんなに
濡れてるんだ？
濡れてなんか
ないわっ


乙女が
わからないみたい
だから教えてあげる
これは誰の
恥ずかしい音？
やあ


そう？すごい
水音だけど
やめて…
ああ


最低…
私を
辱しめて
そんなに楽しいの？


楽しいさ…
日に日に
俺の手によって
快楽を覚えていく
お前を見るのは


やめなさい
え…
血…


どうしたの？
まだ傷口
開いてるじゃない
貴方なら
このくらい
すぐ治るでしょ？
…きっと
血を採るために
銀のナイフで
傷をつけてたから
だろ

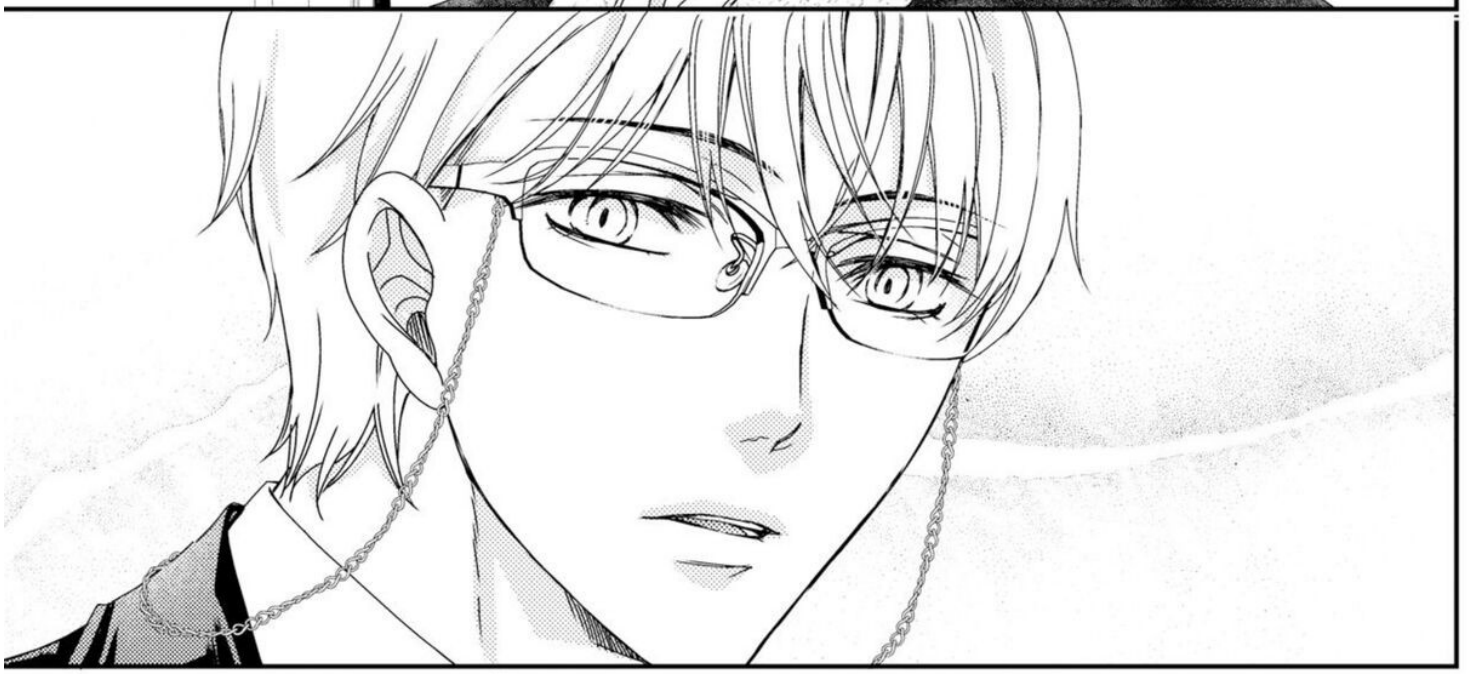

大丈夫…
すぐ治る
俺は…
吸血鬼(バンパイヤ)だから…
悪い――…
ちょっと
ふざけ過ぎた
――何かしら…
この妙な…カンジは


南京街
…ここは東洋の街並みだな
神戸は貿易の街で異国人が各所に屋敷を構えているの
ここは清国の人間の島ね


明治の初め…清国は日本と国交条約が結ばれていなかったため
異人街には居住区を認められておらず…外れに独自の街を造ったの
その名残りでチャイナタウンがあるのよ


たしかに…あまり見ない街並みだ
…おもしろいでしょ？
…でこんな場所に乙女が何の用があるんだ？


貴方の血を
薬にできるかも
しれない人間に
会いに行くの



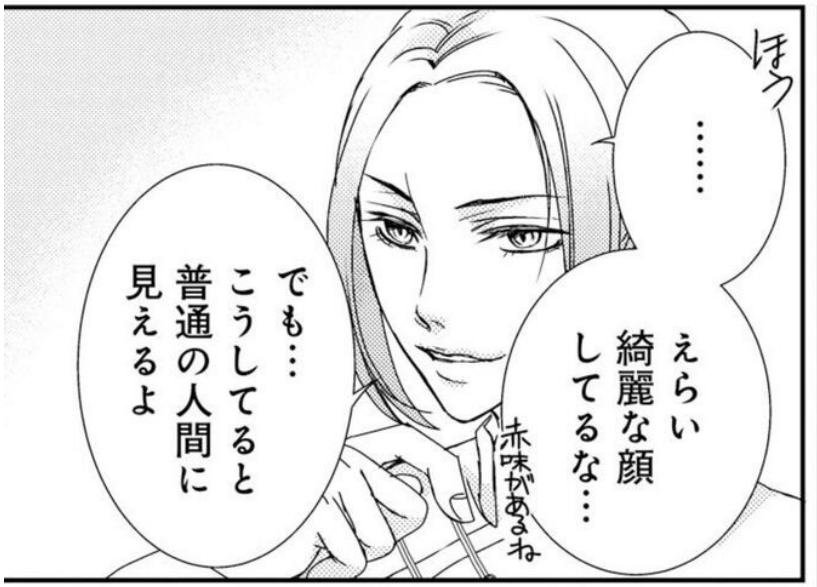

…それって
信用できそうな
人物なのか？
ううう…
――…
どうかしら…


あの街を
抜けた所に
こんな屋敷が
あるとは――…
でかい
屋敷だな
ここは
清国の貿易商の
屋敷…表向きはね


！
ようこそ
乙女――…


ウィル…
李浩宇(リコウウ)よ
この異人館の所有者で
お金になりなそうな物は
何でも取り扱う商人
ただし
阿片(アヘン)以外の
約束よ…


まあ…
阿片以外は目こぼし
してもらってるから
文句言わないよ
で…
これが話に聞いた
西洋アンデッドか

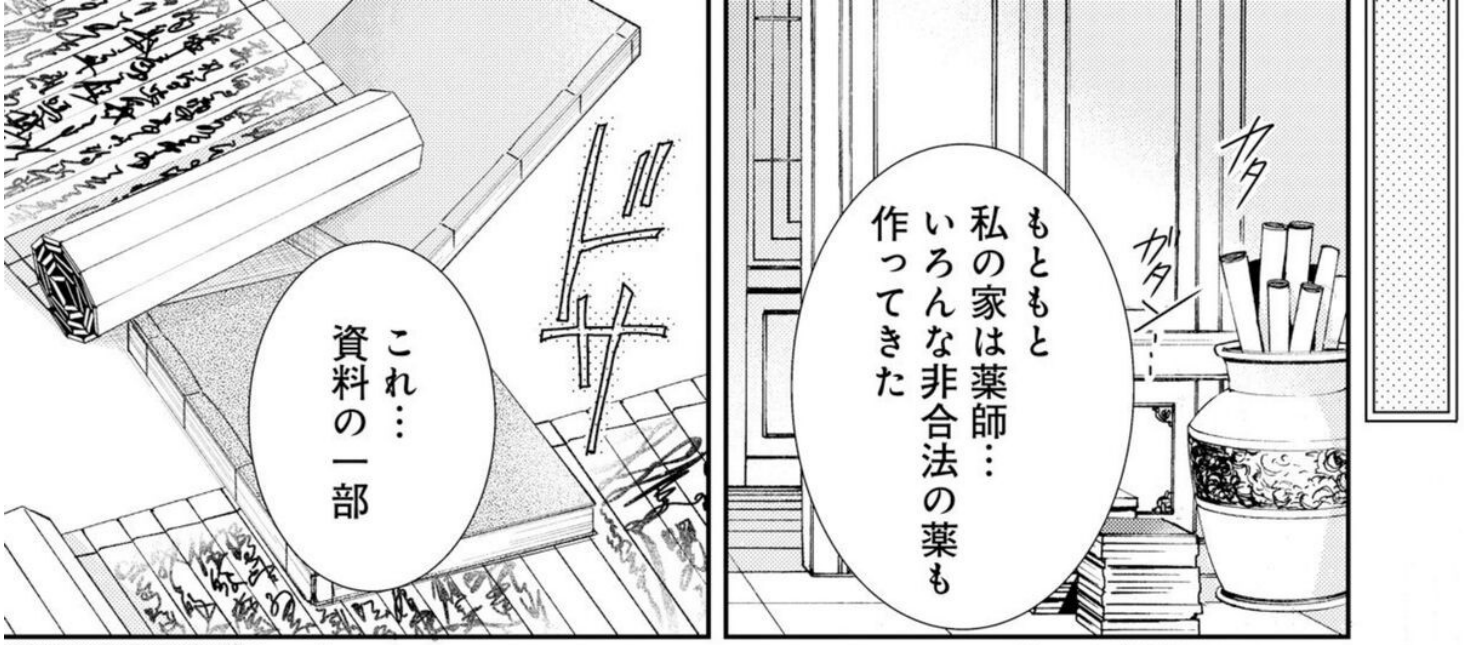

ほっ
……
えらい
綺麗な顔
してるな…
でも…
こうしてると
普通の人間に
見えるよ
赤味があるね


すっ
上流
マダムたちが
高値で
買いそうよ

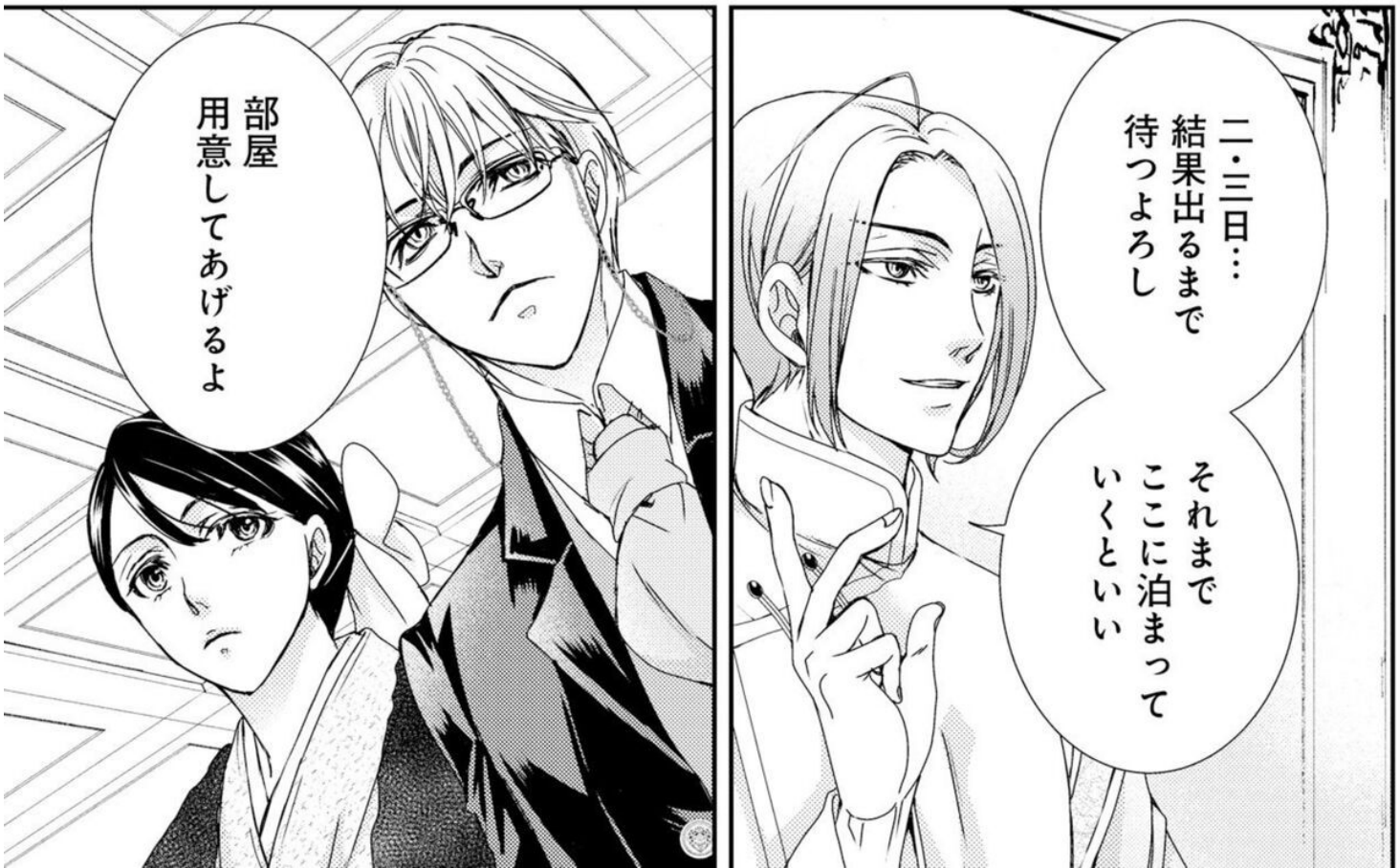

男に顔をなでられる趣味はない
ウィルだ…ヨロシク


コイツ…すごい力だ
手首を折る気か!!


放せ！
こっちに来るよろし！
――…


もともと
私の家は薬師…
いろんな非合法の薬も
作ってきた
ガタ
ガタン…
これ…
資料の一部


アンデッドの
血は確かに
預かったよ
文献と
照らし合わせて
調合してみる


二・三日…
結果出るまで
待つよろし
それまで
ここに泊まって
いくといい
部屋
用意してあげるよ



変わった服だな
着方がよく
わからなかった

…
慣れないわね

あっちもこっちも
ピチピチだし…
それに足の所
開きすぎよ

でも乙女は
綺麗な体を
しているから

よく似合って
いると思う

何言ってるの
馬鹿らしい


でもせっかく
用意してくれた
ものだし
あちらの文化
ですものね！
受け入れるわ
さむっ
風よけには
なるだろう？


トクン
心臓が早い
トクン
ウィルの体温は
そんなに高くなんか
ないのに…
温かい…


フッ
あ〜
お邪魔だった
かな？
この寒い中
アツアツね
おふたりさん
ドサッ
浩宇！


やっぱり…
俺は
乙女が好きだ

ん

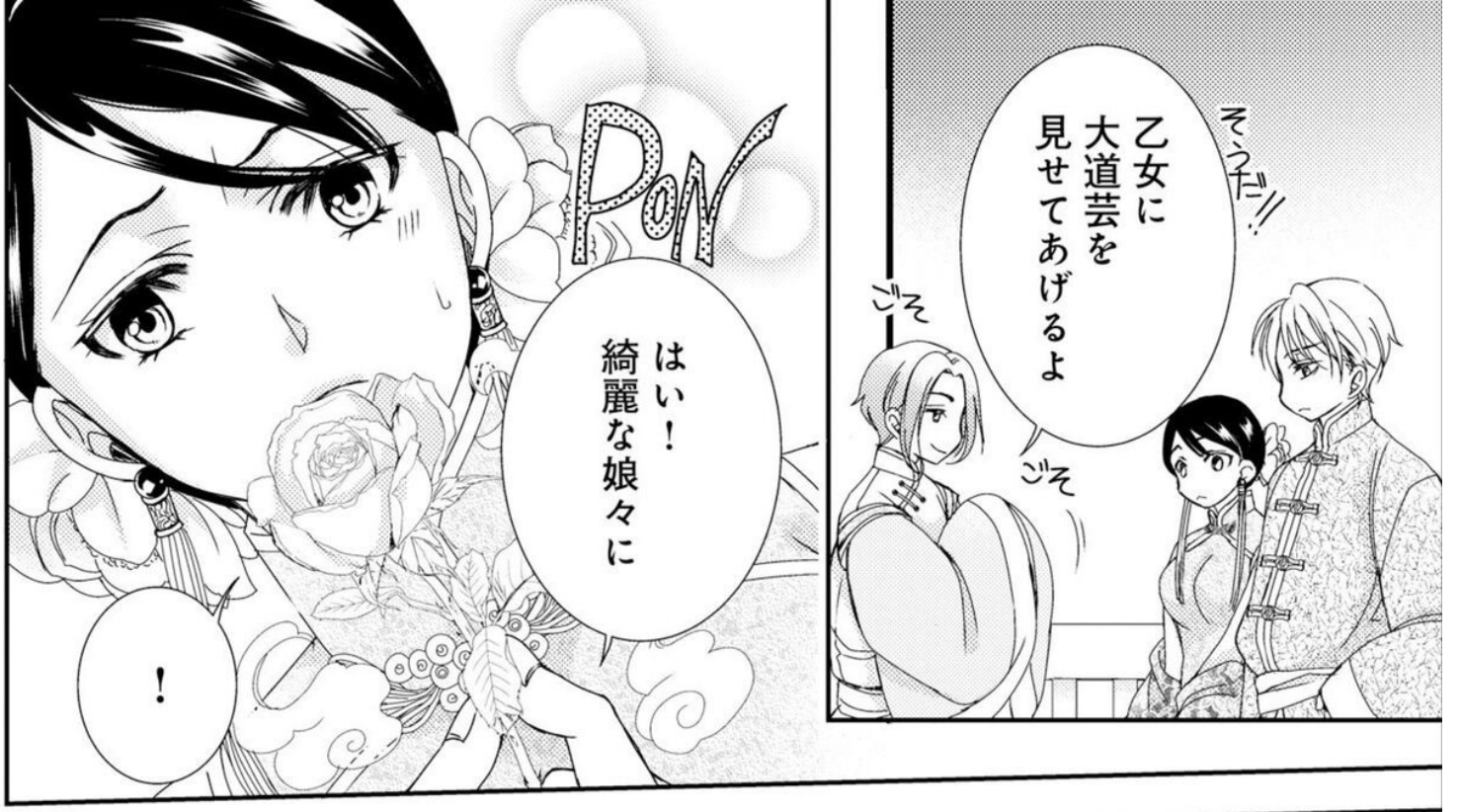

はあ
ウィル…
こんな…
人の屋敷で――
だめ――…
はあ
乙女が悪い…
またいじめたく
なった

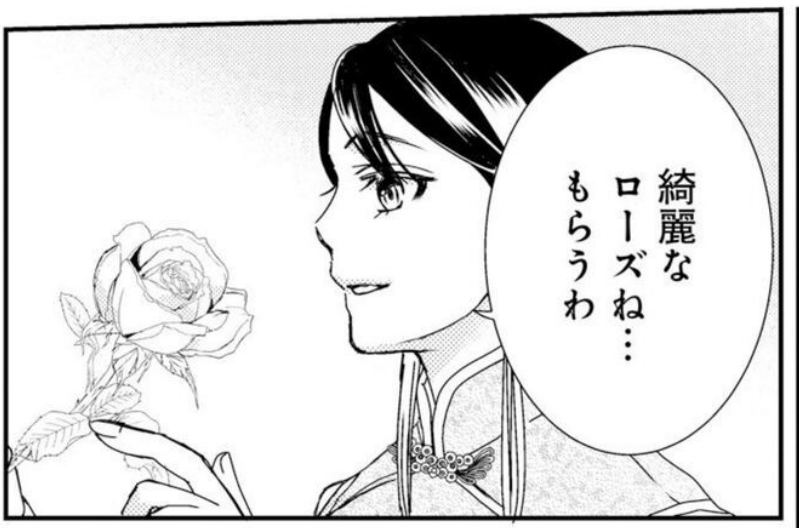

そんなのじゃないわ！
珍しい建物だから少し散歩してただけ
何か用なの？
ああ！すっかり用件忘れる所だった
明日の夜夜会を開くから君たちも参加してもらおうと思って


……
あまり華やかな席は好きじゃないわ
まあ…そう言わないで
私 お客人をおもてなしたいよ


滅多に来ない南京街の上玉のお客ね
質素な心ばかりの…おもてなし

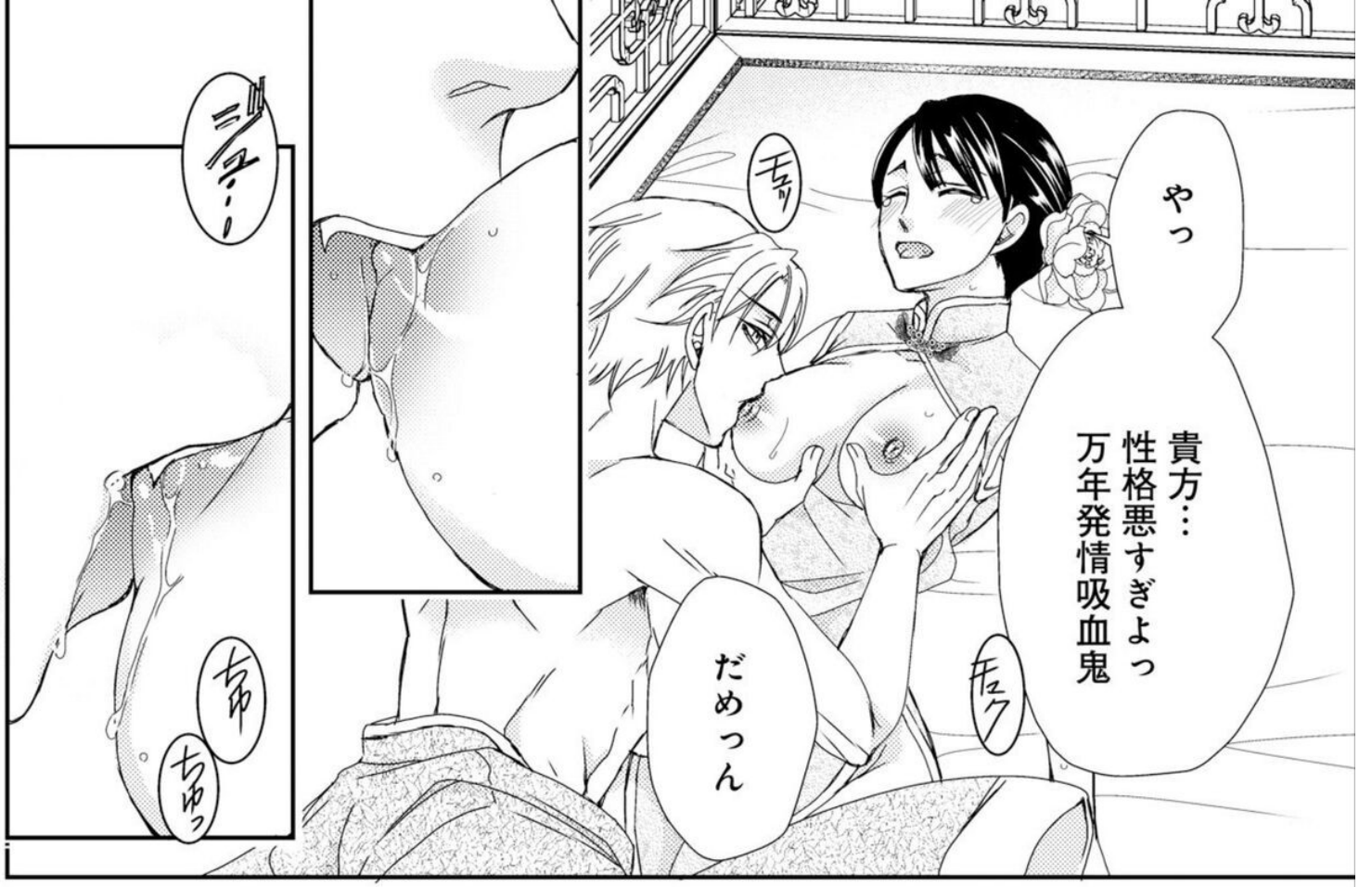

ちょっ
ビクッ
や…
この服は本当に悩殺的だな
さあ…今日はどうやってあえがせてあげようか
キスの雨を降らせて潤ませようか…
それとも…俺を咥えてみる？
ドキッ


そうだ!!
乙女に
大道芸を
見せてあげるよ
ごそ
ごそ
Pon
はい！
綺麗な娘々に
！


綺麗な
ローズね…
もらうわ


……
あいや～～～…
うけなかったか


痛っ
ああ
大丈夫か？


やっ
貴方…
性格悪すぎよっ
万年発情吸血鬼
だめっん

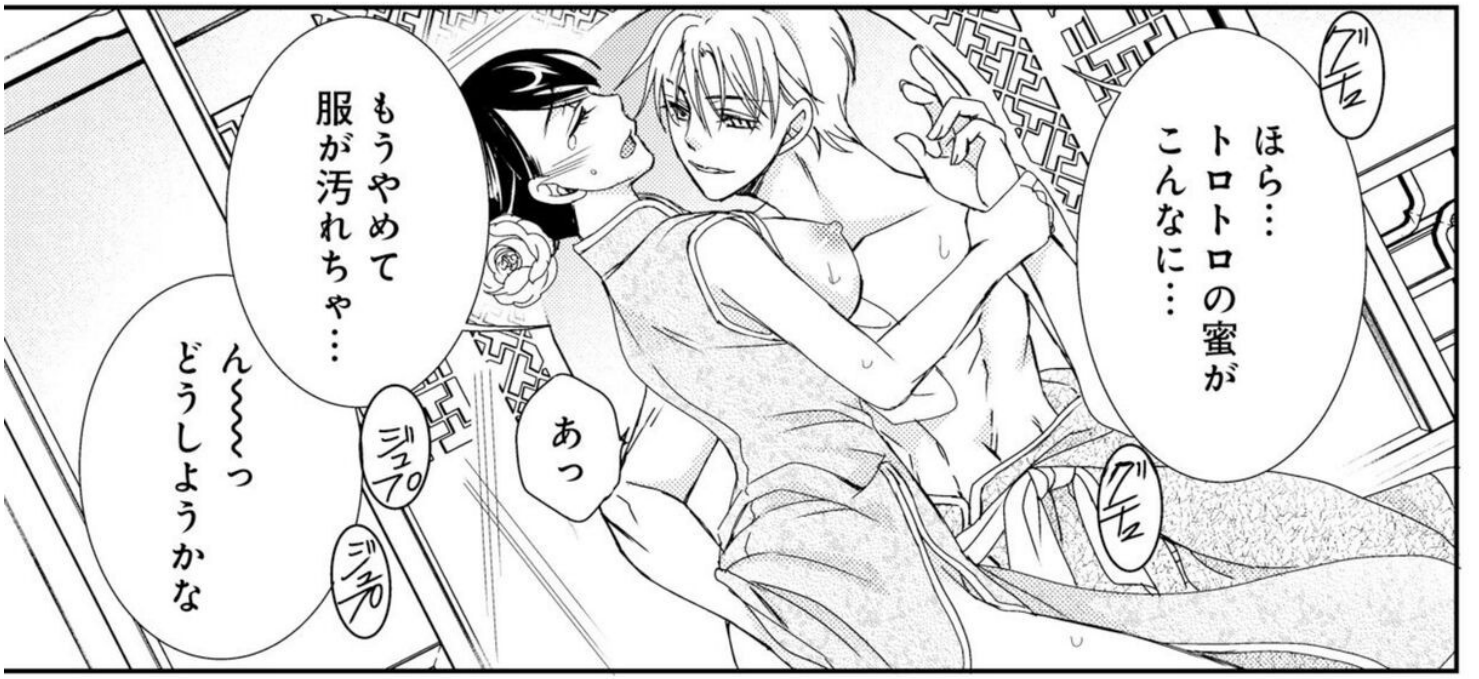

それは
発情させる
乙女の所為(せい)だろ？
男は少し
意地悪なほうがいい…
いろいろ楽しめるぞ
いろいろって…
きゃっ
あっ
ウィル


私…お客に
大変なコト
してしまったね
大丈夫よ…
今のは私の
不注意――…
それより
浩宇の服に
血がつくわ
上等な
シルクじゃない


…そろそろ
体も冷えてきたし
部屋に戻るわ
わかった…
部屋帰ったら
ちゃんと消毒
してよ！
ええ…


乙女の血の
サンプル
採れた…


やっあ
ナカ…
指…かき回し
ちゃ…
お前のいい所…
もうわかってる


ほら…
トロトロの蜜が
こんなに…
もうやめて
服が汚れちゃ…
あっ
ん〜〜〜っ
どうしようかな


じゃあ
好きっていいながら
キスしてくれたら
止める
なっ


吸血鬼が欲する
乙女の血
きっと
普通じゃない
興味あるね


何ともないか？
棘は入っていない
ようだが
ええ…


すごいわね…
貴方の唾液


痛みはすぐに
消えてしまうし…
傷跡も綺麗に
癒えてしまうんだもの


後で
殴ってやる
す…
――好き


乙女…
俺も…
愛してる
おかしいね…
何か間違えたか？
あの吸血鬼…
人間と同じ
反応出てるよ


きっと…誰でも
欲しがるわ
死ななくて
超人的な力がある
なんて人類の夢よ
乙女も…
欲しいか？
そんな力…
――…
おじい様のために
欲しいけど…
私は要らないわ
永遠の命なんて
世界が色褪せて
見えそうだもの

Young Love Comic aya

【単話売】純蜜乙女の溺愛契約

～執事はドSヴァンパイヤ～　3話

霜月星良

©SEIRA SHIMOTSUKI

デジタル版発行　2018年12月
初版発行　2018年12月

発行人　北脇信夫
編集人　中江陽奈

発行所　株式会社 宙(おおぞら)出版
http://corporate.ohzora.co.jp
最新の住所・電話番号は弊社HPをご覧ください。

本書はフィクションです。実在の人物、事件、団体には、いっさい関係ありません。

本書の一部、または全部を無断で複製・転載・上映・放送等することは、法律で定められた場合を除き、著者及び出版者の権利の侵害となります。